

# めいりん



## 学力面の強みと弱みを把握しよう！！

### ～令和4年度 全国学力・学習状況調査より～

「令和4年度 全国学力・学習状況調査」の結果が、文部科学省から公表されました。この調査は、4月19日に全国の小学校6年生と中学校3年生を対象として、「国語」「算数（数学）」「理科」「英語（中学校のみ）」の教科に関する問題と、児童の生活習慣や学習習慣についての「児童質問紙」から成り立つもので、本校6年生の結果は次の通りでした。

**児童質問紙関係は、後日掲載させていただきます。**

#### 1 教科（国語・算数・理科）に関する調査の分析について

【各教科の平均正答率】

問題（設問）は、文部科学省のHPに掲載されています。（明倫小HP・学習用リンクでもご案内）

平成30年度まで、国語・算数ともに「基礎的・基本的知識・技能が身に付いているかどうか」をみるA問題、「基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうか」をみるB問題に分かれて実施されましたが、令和元年度より、一体的に問う形式で出題されるようになっていきます。

平均正答率	国語	算数	理科
本校	70	68	63
(全国との差)	(+4.4)	(+4.8)	(-0.3)
三重県	65	62	63
全国	65.6	63.2	63.3

今年度、本校の平均正答率は、国語・算数は全国・県平均正答率を上回り、理科については全国平均値をほんの僅かに下回り、県平均正答率と同値でした。

領域で見たときの強みと弱みは、明倫小のどの学年においても共通に見られ、これらの克服が、学校全体における学力向上への課題となっています。

領域で見たときの強みと弱みは、明倫小のどの学年においても共通に見られ、これらの克服が、学校全体における学力向上への課題となっています。

＜教科別の成果と課題＞ （抜粋） 【◎＝正答率が高い領域 ●＝正答率が低い領域】  
【本校の正答率（全国の正答率）】 【設問番号】

**(1) 国語** 国語については、全国平均を4.4ポイント上回りました。

【領域】 ◎我が国の言語文化に関する事項 83.3% (77.9%)

○読むこと 75.0% (66.6%)

●書くこと 50.0% (48.6%) …全校平均値より高いが、苦手領域



【出題の趣旨別】

◎【2-(1)】登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える 79.6% (68.4%)

◎【2-(2)】登場人物の相互関係について、描写を基に捉える 81.5% (70.6%)

○【3三イ】…はんせい

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う 75.9% (58.7%)

○【3 四】漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く 83.3% (77.9%)

●【1 四】互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる 53.7% (47.7%) …全校平均値より6%高いが、苦手問題

●【3 一】文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える 55.6% (59.2%) …全校平均値より-3.6%

●【3三ウ】…したしむ

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う

61.1% (67.1%) …全校平均値より-6%

### 【今後の学校としての取り組み】

- ・知識や技能の学習内容の定着を図る取り組みの成果が表れており、今後も継続していきます。
- ・話の内容が明確になるように、事実と感想を区別してスピーチの構成を考えたり、自分の考えが伝わるように資料を活用したりして話す活動に取り組んでいきます。
- ・作文や日記など、日頃から文章を書く機会を増やし、書く力・文章力の向上を図る活動に取り組んでいきます。

### (2) 算数 算数については、全国平均を4.8ポイント上回りました。

- 【領域】 ○数と計算 72.8% (69.8%)      ◎図形 70.4% (64.0%)  
○データの活用 71.0% (68.7%)  
●変化と関係 55.6% (51.3%) …全校平均値より高いが、苦手領域



#### 【出題の趣旨別】

- ◎【3 (2)】分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる 75.9% (63.9%)
- ◎【4 (2)】図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している 88.9% (83.2%)
- 【4 (3)】図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している 74.1% (66.5%)
- 【3 (2)】目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる。 64.8% (66.8%)
- 【3 (4)】加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる 64.8% (67.7%)

### 【今後の学校としての取り組み】

- ・数量の関係を捉えることができている、今後も知識・技能の定着を図られるよう、取り組んでいきます。
- ・日常生活で出会う様々な問題場面において、問題を解決するために、必要な数量を選択し、その求め方と答えを式や言葉を用いて記述する学習活動を取り入れます。

### (3) 理科 理科については、全国平均を僅かに0.3ポイント下回りました。

- 【領域】 ○「生命」を柱とする領域 78.5% (75.0%)  
●「エネルギー」を柱とする領域 49.1% (51.6%)

どれがメスシリンダー？



#### 【出題の趣旨別】

- 【1-(2)】自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。 77.8% (67.5%)
- ◎【1-(3)】昆虫の体のつくりを理解している。 88.9% (73.1%)
- 【2-(1)】メスシリンダーという器具を理解している。 40.7% (67.8%)
- 【3-(1)】日光は直進することを理解している 13.0% (27.8%)
- 【4-(3)】観察などで得た結果を、結果からいえることの観点で分析して、解釈し、自分の考えをもちることができる。 35.2% (45.5%)

### 【今後の学校としての取り組み】

- ・各内容において、児童が自然の事物・現象を捉えるための視点や考え方を示し、それを軸とした授業改善の取組を活性化させ、理科における資質・能力の育成を図るように取り組んでいきます。具体的には、実験や観察の充実を図っていきます。